



### 本号の内容

- ・参議院文教科学委員会委員が本学を視察
- ・静脈パターン認証システム導入
- ・学生宿舎初期消火訓練
- ・学長らが法科大学院を視察
- ・システム情報工学研究科知能機能システム専攻が東京キャンパス秋葉原地区で専攻公開
- ・科学技術週間公開イベント「陸域環境研究センターガイドツアー」開催
- ・漢陽大学校師範大学付属女子高校及び同付属中学校教員が附属高等学校を訪問
- ・安の森と集落を探訪（アースデイつくば2005合同企画）
- ・情報化シンポジウム開催
- ・次世代育成支援対策推進法に基づく国立大学法人筑波大学行動計画
- ・附属図書館からのお知らせ
- ・屋内プール学内開放
- ・陸域環境研究センターセミナー開催
- ・ILC特別講演会開催
- ・スーパーコンピュータワークショップ開催
- ・睡眠呼吸障害外来開設
- ・マスコミ工学研究会講演会開催
- ・各種表彰等
- ・自転車・バイク置き場新設

# 2005 10

2005年10号（通巻1102号）

発行：筑波大学

編集：総務・企画部

発行日：平成17年5月25日

## 「看護の日」を開催

- 附属病院看護部 -



外来ホールでの健康相談

5月12日に附属病院外来ホールならびに薬剤待合室において、第12回目の「看護の日」の催しを開催しました。

「看護の日」は、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの生誕を記念し、平成4年5月12日に制定されたものです。看護の心、ケアの心、助け合いの心を、私たち一人ひとりが分かち合うことが必要です。こうした心が、老若男女を問わずだれもが育むきっかけとなるよう願ったものです。

当日は、外来ホールにて病院スタッフによる健康、栄養、育児・母乳などの相談コーナー、血圧、体脂肪等の測定コーナー、小児専門認定看護師、緩和ケア・ホスピスケアの紹介、(財)桐仁会、(株)中内等による福祉・介護用具の展示会、薬剤待合室では、征矢英昭助教授(人間総合科学研究科)の研究室の大学院生によるゴムまりを使った健康体操、グッパ体操などの実習を開催しました。そして、病院ボランティアの方々等にもお手伝い頂き盛会のうちに終了することができました。

近年は生活習慣病予防、健康管理に対する意識・関心が高まっており、相談を希望される方が多くなってきました。同院の糖尿病療養指導士の資格を持つ栄養士、看護師による的確な教育・指導が好評でした。開始1時間前から相談を希望する人が列を作るほどで、昨年よりも約150人多い、延べ412名の方々に参加していただきました。

同院は、この患者さまたちとのふれあいをこれからの業務の糧として、また、皆様に愛される病院を目指し日々研鑽していく決意を新たにしていました。

参議院文教科学委員会委員が本学を視察

参議院文教科学委員会の亀井郁夫委員長他13名の委員が5月10日（火）本学を訪問し、岩崎洋一学長との懇談及び学内施設を視察しました。



本学の概要を説明する岩崎学長

懇談には学長の他5人の副学長等も同席し、学長は、本学の概要及び教育研究施設の課題等について説明を行いました。懇談後は、計算科学研究センター及び図書館情報専門学群を視察し、各施設の概況等の説明及び学生等との懇談をしました。なお、同委員会の視察には、文部科学省から石川高等教育局長、土屋総務課長、清木国立大学法人支援課長等が同行しました。

学生宿舎への入館管理に「静脈パターン認証システム」を導入

4月26日（火）、学生宿舎の入館管理に静脈パターン認証システム導入に関する記者公開を行いました。本学には、63棟、約4,000室の学生宿舎がありますが、近年、学生が被害者となる事件が増加する傾向にあることから、昨年6月に学生や教職員で構成するセーフティプロジェクトを立ち上げ、安全・安心の確保のための施策を進めてきました。これまで、屋外照明設備を65カ所増設したほか、学生宿舎周辺などの樹木の剪定を行い視認性確保の向上を図りました。今回の静脈パターン認証システムも同プロジェクトの施策の一環として、利便性、安全性を考慮し導入したものです。

学長から学生に対する安全・安心の確保を優先課題と考えている旨の挨拶が行われた後、施設部から、システムの概要及び導入の経緯等の説明、装置の説明があり、更に、学長及び学生による認証登録、出入りのデモンストレーションが行われました。

認証機（104台、約2,000万円相当）は、デジコム（株）の寄附により工事を実施し、工事完成後は、棟毎に入居者や管理者の登録作業と取り扱い説明を実施し、動作確認を行った後、順次運用を開始し、6月初めには全ての宿舎での運用開始を予定しています。



学生による認証登録、出入りのデモンストレーションの様子

マスコミ各社も安全・安心に関する取り組みや最先端技術を駆使した認証装置に高い関心を示し、新聞各紙に報道されるとともに、NHK水戸放送局によるデジタル放送番組においても紹介されました。

学生宿舎初期消火訓練を実施  
- 学生部学生生活課 -

5月18日16時から平砂学生宿舎共用棟前で、つくば市中央消防署職員5名の指導により平成17年度春の学生宿舎初期消火訓練が行われました。



消火器の使い方訓練の様子

学生宿舎初期消火訓練は、学生部学生生活課が主催し毎年春と秋に行なっています。

今回の訓練では火事を発見した場合の対処方法、消火器の使い方、携帯電話からの消防署への連絡に当たっての注意など大変有意義な訓練が行われました。参加者は学生、学生宿舎管理事務所職員、厚生会委託業者、学生部長他学生生活課職員など、雨天にも係わらず160名の参加がありました。

学長らが法科大学院（ビジネス科学研究科法曹専攻）を視察

4月に新設された東京キャンパス秋葉原地区（千代田区外神田1丁目18 - 13 秋葉原ダイビル14, 15階）の法科大学院視察が、4月25日（月）の午後に行われました。

岩崎洋一学長はじめ、副学長、理事、監事、運営協議会のメンバー、本部部長級が訪れ、鈴木久敏ビジネス科学研究科長及び新井誠法曹専攻長による概要説明の後、高層からの眺めも堪能しつつ、講義室、ゼミ室、図書・自習室、研究室などを視察し、また法科大学院に併設している提携法律事務所（弁護士法人筑波アカデミア法律事務所）も訪問しました。

視察後には、法科大学院教員を加えた懇談会において、より魅力ある法科大学院を目指すための意見交換や質疑等が活発に行われ、実りある視察となりました。



視察の様子



懇談会風景

システム情報工学研究科知能機能システム専攻が東京キャンパス秋葉原地区で専攻公開

5月6日、東京キャンパス秋葉原地区（法科大学院）の秋葉原ダイビル14階において、システム情報工学研究科知能機能システム専攻「専攻公開2005」が開催されました。

知能機能システム専攻に所属する34名の教員と、連携大学院の11名の客員教員の研究内容を紹介する約50枚のポスター展示と食感呈示のデモなどを実施しました。

翌日は第三学群L, M, G棟などで研究内容を紹介するポスターとともに、多くのデモ展示が行われました。両日とも大学院への入学を希望する他大学の学生や社会人をはじめとして多くの方々が来場され、関心の高さをうかがえました。



ポスターとPCによる研究内容説明の様子



科学技術週間公開イベント「陸域環境研究センターガイドツアー」が開催される

第46回科学技術週間（4月18日～24日）のイベントとして、陸域環境研究センターの一般公開が4月23日（土）に実施されました。

これは、研究学園都市近辺の46機関が参加する「科学の街つくばの研究機関公開」の一環として行われたもので、本学では唯一、陸域環境研究センターが毎年参加してガイドツアーを開催しています。



当日は首都圏や海外からの来訪者を含む40名を超える参加者を得て、「大気と大地と水のかかわり」をテーマとした施設紹介・ミニ講義・実験クイズ・地形模型実験及び大学院生によるパネル研究紹介などが好天に恵まれた屋外で行われました。特に、地面の温度を当てるビンゴゲーム（写真）では小学生から年配の方ま

でが一喜一憂し、大学院生の研究紹介では一般市民からの質問や応答が活発に飛び交いました。

なお、当日の様子は陸域環境研究センターのホームページ (<http://www.suiri.tsukuba.ac.jp/new/update/koukai/H17koukai.html>) でもご覧いただけます。

漢陽大学校師範大学付属女子高校及び同付属中学校教員が附属高等学校を訪問

5月10日、ソウルにある漢陽大学校師範大学付属女子高校及び同付属中学校の先生方20名が、海外研修の一貫として「先進教育現場と教育施設見学、授業参観、教員との対話」を目的に、附属高等学校を来訪しました。

事務連絡を行った後、4グループに分かれて2限の授業を見学。その後、3限～4限にかけて、会議室で教員との懇談（質疑応答）を行いました。

懇談には、本校からは延べ10数名が出席。事前に質問を頂いていた紙幣に描かれている人物についての回答を皮切りに、教員の社会的地位（給与を含む。）をめぐる議論が前半のテーマになりました。後半は本題の教育をめぐる諸問題について質疑応答が続きました。

韓国の進学熱の高さは噂どおりで、夜10時まで生徒が学校で自習できる体制になっ



授業参観の様子

ているという説明がありました。また、生徒の進学実績が学校や教員の評価につながるといふ点にも、日本とは違う“教育風土”を感じました。

参観した本校の授業についての感想を尋ねたところ、生徒及び教員を賞賛する意見が相次ぎました。

限られた時間であり、通訳を介してという制約はありましたが、実りある交流になりました。

安の森と集落を探訪  
- アースデイつくば2005  
合同企画 -

本学サークル・エコレンジャー所属の生物資源学類3年市橋あいさんが実行委員長を務める「アースデイつくば2005」が4月22日の「アースデイ」（地球の日）に合わせてスタートしました。5月15日には、つくば市島にある「安（やすらぎ）の森」にて、「訪ねて発見！安の森と集落」が行われ、市民や学生など約40名が参加しました。安の森は、市民団体「雑木林で遊ぶ会」が10年かけて手入れをしてきた森で、万博で造成された土地が、緑あふれる森になっているところです。

気持ちよい新緑の中、集落研究家の伊藤さんや地主の小川さん、手入れを行っている金川さんからお話を聞きながら、森を探訪しました。かつての集落生活と森との



今はなき松林の場所で昔の写真と記念撮影

密接なかかわりや、森で育った木を建材として用いた昔の屋敷の見学などを通して知識を深めました。

最後に、きこり体験を行い、間伐や切り倒した木の皮をはく作業を行いました。このように普段できない体験を楽しみながら、つくばの周辺にある自然豊かな森を再認識し、自然のすばらしさ、尊さに気づかされた一日でした。

第2回筑波大学情報化シンポジウムの開催について

- 総務・企画部情報化推進室 -

TWINSを中心に、本学における「オープン系ソフトウェア」の活用をメインテーマとし、第2回筑波大学情報化シンポジウムを開催します。

「オープン系ソフトウェア」とは、基幹系（業者に委託して開発した業務システム）サーバのデータベース中にあるデータを使って動く、主としてユーザが開発するソフトウェアのことです。具体的には、TWINSなどのサーバにあるデータをExcelやAccessで活用することです。一般に、情報システムから投資以上の効果を引き出すためには、「オープン系ソフトウェア」を効果的に開発し、利用することが不可欠

と考えられています。

多くの方々の仕事のお役に立つテーマと考えております。時間を工面し、ご参加ください。

日 時：6月7日（火）13:30～17:00

場 所：大学会館国際会議室

情報システムにおける「オープン系ソフトウェア」の必然性と開発運用  
宇都宮公訓シニア・アドバイザー（情報化戦略室）

生物学類における「オープン系ソフトウェア」の活用

丸尾文昭助手（生命環境科学研究科）

TWINSの「オープン系ソフトウェア」の紹介

工谷格一般職員（学務部学務課（成績管理・システム担当））

TRIOSと「オープン系ソフトウェア」

松崎義文専門職員（研究事業部研究事業課（研究情報担当））

参加対象者：教職員，学生（自由参加）

問 合 せ 先：総務・企画部情報化推進室企画管理係（TEL2071）

次世代育成支援対策推進法に基づく国立大学法人筑波大学行動計画について

- 組織・人事部人事課 -

我が国の少子化が急速に進行し、経済社会に深刻な影響を与えることが懸念されていることから、次代の社会を担う子どもたちが健やかに生まれ育つ環境をつくるために、国、地方公共団体及び事業主が10年間をかけて集中的かつ計画的に取り組んでいくため「次世代育成支援対策推進法」が制定され、本年4月から施行されました。

同法では事業主に、仕事と子育ての両立を図るために必要な雇用環境の整備などについて「一般事業主行動計画」を定める義務が課せられており、法人においても、職員が仕事と子育てを両立させることができる働きやすい環境を作ることによって、すべての職員がその能力を十分に発揮できるようにするため「国立大学法人筑波大学行動計画」を策定しました。この行動計画の内容や法人における労働条件の制度等については、Web Officeに掲載しましたので、是非ご覧ください。

附属図書館からのお知らせ

教員を対象とした特別貸出「教員特別貸出」の制度が変更になりました。

これまでの教員特別貸出の100冊という制限では研究を行う上で少なすぎるという意見もあり、ご自身の経費で新規に購入した図書については貸出冊数を無制限とした「大学教員特別貸出」のほか、図書館経費以外で購入された図書を100冊まで1年間使用できる「大学教員研究用長期貸出」という区分を新たに設けました。

この2つの貸出を是非ご利用くださいますようお願いいたします。

対象資料、貸出限度冊数等は次のとおりです。

区 分	対象図書館資料	貸出限度冊数	貸出限度期間	貸出更新限度回数
大学教員研究用長期貸出	図書館経費以外で購入された図書館資料（雑誌及び新聞を除く。）、旧東京教育大学蔵書及び重複図書館資料で附属図書館長が指定するもの	100冊	1年	更新しない
大学教員特別貸出	当該大学教員及びグループの経費で新規に購入した図書館資料（雑誌及び新聞を除く。）*	制限しない	1年	制限しない

\*既に大学教員特別貸出を受けている図書を含む。

詳しくは、各図書館のメインカウンターでお尋ねください。

屋内プールの学内開放（学生・教職員対象）について

- 体育センター -

次の日時に、本学の学生及び教職員を対象にプールを開放します。ただし、都合により中止する場合があります。中止の場合は、プール入口に掲示します。

なお、水泳キャップを被っていない方の利用は出来ません。また、入場の際には、必ずプール使用申込書に必要事項を記入してください。

期 日：6月（月）（水）（金）  
1日 3日  
6日 8日 10日  
13日 15日 17日  
20日 22日 24日  
27日 29日

時 間：17:00～18:25

問合せ先：体育センター（TEL2881）

第85回陸域環境研究センター  
セミナーの開催について  
- 陸域環境研究センター -

世界的に著名な土壌物理学者、米国コーネル大学のJ. Y. Parlange（パーランジ）教授（生物環境工学科）の初来日に併せ、次のとおりセミナーを開催します。皆様の参加をお待ちしています。

日 時：5月30日（月）17:00～

場 所：陸域環境研究センター会議室

講 演 者：Jean-Yves Parlange教授（土壌物理や浸透に関して、見識深い論文を数多く著作。著作は数多くの研究者によって読まれ、ISIのHighly Citedの研究者にも選ばれている。）

問合せ先：陸域環境研究センター2階（TEL2533, E-mail：ichino@suiri.tsukuba.ac.jp）

ILC特別講演会 - 大学からの起  
業を考える - の開催について  
- 産学リエゾン共同  
研究センター（ILC） -

産学リエゾン共同研究センターでは、筑波大学産学連携会（TOMO）の協賛により、次のとおりILC特別講演会を開催します。本学の教職員及び学生等を対象としていますので、多数の出席をお待ちしています。

日 時：6月6日（月）13:30～16:00

場 所：大学会館国際会議室

対 象：教職員、学生及び筑波大学産学連携会会員

参 加 費：無料

プログラム：

司 会：新谷由紀子講師（システム情報工学研究科、産学リエゾン共同研究センター）

13:30～13:35

開会の挨拶：産学リエゾン共同研究センター長

谷田貝豊彦教授（数理物質科学研究科）

13:35～14:00

講 演 1：大学発ベンチャーの現状と課題

リエゾン推進室長 菊本虔教授（人間総合科学研究科、産学リエゾン共同研究センター）

14:00～15:00

講 演 2：産学連携が日本を救う……大学発ベンチャーIPOへの軌跡

野村證券株式会社公益法人サポート室課長 平尾敏氏

15:00～16:00

講 演 3：新産業創出拠点としての大学と、大学発ベンチャーのミッション

小樽商科大学専門職大学院ビジネススクール教授、博士（農学）、  
ビジネス創造センター（CBC）フェロー 瀬戸篤氏

閉会の挨拶：高木英明教授（システム情報工学研究科）

参 加 申 込：http://www.ilc.tsukuba.ac.jp/rehp/jp/WhatsNew/programme01.htm掲  
載の参加申込書に必要事項を記入のうえ、6月1日（水）までに、電子  
メール又はFAXで、次にお送りください。

E-mail：sasano@sec.tsukuba.ac.jp FAX：6565

問 合 せ 先：研究事業部産学連携課技術移転

浅野（TEL2912，E-mail：sasano@sec.tsukuba.ac.jp）

第4回スーパーコンピュータワークショップの開催について  
- 学術情報メディアセンター -

学術情報メディアセンターでは、次により「第4回スーパーコンピュータワークショップ ~大規模シミュレーションと並列計算~」を開催します。皆様のご参加をお待ちしています。

日 時：6月7日（火）13:30～17:00

会 場：大学会館3階特別会議室

主 催：学術情報メディアセンター

内 容：板野肯三 学術情報メディアセンター長 挨拶

大規模利用グループによる成果報告

・第一原理電子状態計算によるナノ構造体の物質設計と物性解明  
押山淳教授（数理物質科学研究科，物質創成先端科学専攻）

・格子QCDにおけるsクォーク効果の研究

金谷和至教授（数理物質科学研究科，物理学専攻）

・新奇分子物性の予測と化学反応機構解析のための量子化学計算

守橋健二助教授（数理物質科学研究科，化学専攻）

・第一原理分子動力浮法による触媒反応過程の研究

中村潤児助教授（数理物質科学研究科，物性・分子工学専攻）

招待講演

・地球シミュレータと並列有限要素法

中島研吾特任助教授（東京大学大学院理学系研究科）

・挨拶：腰塚武志副学長

・挨拶：山口喜教学術情報メディアセンター副センター長

問合せ先：学術情報メディアセンター 小木哲朗（E-mail：tetsu@cc.tsukuba.ac.jp）

U R L：http://www.cc.tsukuba.ac.jp/mimosa/

睡眠呼吸障害外来を開設  
- 附属病院 -

附属病院では、睡眠呼吸障害診療グループ（診療グループ長：佐藤誠教授（人間総合科学研究科））を新設し、5月23日から睡眠呼吸障害外来を開設しました。また、入院検査のための終夜睡眠ポリグラフ検査のできる検査室等の準備（6月頃開設予定）も進めており、睡眠時無呼吸症候群（SAS）の診療・検査・治療を行います。同院は、他の診療科とも連携し、様々な角度から治療できることが特徴です。

「みなさんは、大きないびきをかいて寝ていませんか？」

SASは、夜、大きないびきをかいて断続的に呼吸が止まるという疾患で、夜間低酸素血症、睡眠の質の低下などにより、高血圧症や糖尿病など様々な生活習慣病を合併したり、昼間の眠気や労働・学習意欲の低下をもたらしたりします。

このように、熟睡できないので、日中、耐え難い眠気が襲ってきます。平成15年2月26日の岡山駅付近で起きた新幹線の運転士の居眠り運転で注目を浴びました。

健康生活維持の三要素は、「運動」、「栄養」、「休養」が大切と言われています。この「休養」の中で最も重要な「睡眠」の役割を見直してみませんか？

ご自身あるいは身近に「いびきの大きい方」、「いびきで困っている方」、「日中の眠気と闘っている方」はいませんか？

このような症状のある方は、同院にお越し頂くか、同院へ照会ください。

なお、この疾患についての問い合わせ先は、次のとおりです。

人間総合科学研究科 佐藤誠研究室（TEL3074）

谷川武研究室（TEL6004）

診療予約に関して 附属病院予約センター（TEL3570）

平成17年度第1回マスコミ工学研究会講演会の開催について

次の講演会を開催しますので、興味のある方は奮ってご参加ください。

日 時：5月27日（金）17:00～18:50（講演会）、19:00～20:50（座談会）

場 所：総合研究棟B 1階公開講義室

演 題：性的マイノリティとメディア ~現象学の視点から~

講演者：神名龍子氏

概 要：セクシャルマイノリティはどのように語られ、また自らを語っているのか。

このことから、社会とセクシャルマイノリティとの「関わり方」が浮かび上がってくる。また、セクシャルマイノリティがメディアで取り上げられる際には、「オカマ」や「ホモ」などの語が、いわゆる「差別語」として問題視されることもある。今回は、性同一性障害やトランスジェンダーの例を中心に取り上げ、従来の運動論の問題点を批判的に検討しつつ、人々の実感に根ざした現実的で無理のない問題解決（マジョリティとマイノリティとの共通理解の成立）の可能性について考察する。

詳細は、<http://vmlab.kz.tsukuba.ac.jp/mct>をご覧ください。

新井誠教授を研究代表とする信託研究会が三菱信託山室記念奨学財団の平成17年度研究助成に採用される

新井誠教授（ビジネス科学研究科、法曹専攻長）を研究代表とする信託研究会は、三菱信託山室記念奨学財団（以下「山室記念奨学財団」という。）の平成17年度研究助成に採用されました。採択の対象となった研究テーマは「わが国信託法理の基本構造と社会的役割の立体的考察」で、本学大学院生を中心に学外の研究者、実務家などの参加による研究会に助成を受けたものです。

この財団は三菱信託銀行の100%出捐により昭和28年に設立され、我国に於ける民間奨学財団としては有数の規模と実績を持たれています。本学も含め過去多数の学生がその恩恵を受け、半世紀にわたる国内外の奨学生の累計は4千数百名にのぼっています。また、研究助成事業についても金融のみならず、多方面に亘った研究対象や出版事業等に助成を続けられています。

今回の山室記念財団から助成を受ける信託研究会に期待されるものは、専門家以外の一般の人々に対し、信託の社会における役割や重要性を啓発する活動を行うことにあります。このため、調査



研究された成果はこの春開設された法科大学院（東京キャンパス秋葉原地区（ダイビル））において公開講座を開催し、発表することを予定しています。本学の都心部における新たな高度専門教育拠点から、研究者、実務家など産学協同による研究会の情報を発信する意義は大きく、各方面から期待されています。

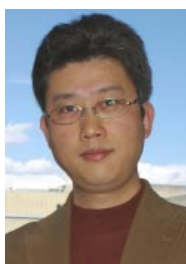
山室記念奨学財団の研究助成による信託研究成果の公開講座が予定されているダイビル



直江俊雄助教授が平成16年度美術教育学賞を受賞

直江俊雄助教授（人間総合科学研究科、芸術学専攻）は、論文「ハーバート・リードと英国美術教育改革 - 批評家と教育実践者との対話をめぐって - 」により、平成16年度美術教育学賞を受賞しました。

この賞は、美術科教育学会学会誌『美術教育学』に掲載された論文の中から一編が選ばれるもので、平成17年3月に開かれた同学会大会において授賞式が行われました。



附属聾学校中学部を主体とする研究グループが松下教育研究財団の第31回実践研究助成に採択される

附属聾学校中学部を主体とする研究グループ（代表：林園枝教諭）の研究課題「聴覚障害児の言語力向上をめざしたデジタル教材に関する研究」が、松下教育研究財団の第31回実践研究助成に採択されました。

この助成は、初等中等教育・社会教育における「視聴覚メディア・情報メディアの効果的な活用および教材開発」などに関する研究を行っているものに授与されます。



遠山理事長から助成金を受け取る、研究グループメンバーの古川日出夫教諭（右）



今後、同グループの研究は、心身障害学系及び附属聾学校との連携によって進められ、実践的な成果に結びつける予定です。

なお、助成金贈呈式は5月13日に東京芝パークホテルで行われ、遠山敦子理事長から贈呈を受けました。

加川貴俊助教授指導下のバイオシステム研究科2年澤木真理子氏が財団法人日本科学協会の平成17年度笹川研究助成金に採択される



加川貴俊助教授（生命環境科学研究科）指導下のバイオシステム研究科2年澤木真理子氏が、財団法人日本科学協会の平成17年度笹川研究助成金に採択されました。

この奨励金は、若手研究者や大学院生の研究を支援するものです。

澤木氏のバイオシステム研究科での「プロトプラストを用いた葉緑体光定位運動の解析」の研究が高く評価され、今回採択される運びになりました。

前川孝昭教授及び内海真生講師指導下の生命環境科学研究科5年福田朱里氏が財団法人日本科学協会の平成17年度笹川科学研究助成対象者に採択される

前川孝昭教授（生命環境科学研究科、生命産業科学専攻）及び内海真生講師（同）指導下の生命環境科学研究科5年福田朱里氏が、財団法人日本科学協会の公募した平成17年度笹川科学研究助成の助成対象者に選ばれました。

この研究助成事業は、日本科学協会が日本財団からの助成金を受け、人文・社会科学及び自然科学（医学を除く。）又は境界領域の研究を対象にし、萌芽性、新規性及び独創性のある内容をもった研究内容で、意欲に満ち優れた研究を行う若手研究者の育成のため、その研究に対する助成を行うものです。

現在、福田氏が生命環境科学研究科で行っている研究を発展させた申請課題「干潟底質の金属汚染評価手法の開発 軟体動物ウミナを用いた重金属汚染評価」が高く評価され、総応募数2,348件から選ばれた353件のひとつとして、今回研究助成を授与される運びとなりました。



4月28日、授与式会場にて

第46回国際数学オリンピック（メキシコ大会）日本代表選手に、附属駒場中学校・高等学校の生徒5名が選ばれる

第46回国際数学オリンピック（メキシコ大会）の日本代表選手に、附属駒場高等学校3年栗林司君、三谷明範君、同2年渡部正樹君、中村勇哉君、附属駒場中学校2年副島真君が選ばれました。このうち、栗林君は2年連続出場です。

日本代表選手は全部で6名。7月13日よりメキシコで、2日間にわたり数学の難問に挑みます。



前列左から渡部君、栗林君、後列左から中村君、三谷君、副島君

第16回国際生物学オリンピック（北京大会）日本代表選手に、附属駒場高等学校2年佐藤博文君が選ばれる

第16回国際生物学オリンピック（北京大会）の日本代表選手に、附属駒場高等学校2年の佐藤博文君が選ばれました。

国際生物学オリンピックは、高校生向けの国際オリンピックとして知られている数学オリンピックや物理オリンピックの生物学版といえます。競技は論理課題と実験課題を解く形で行われ、日本は今回が初参加です。

日本代表選手は4名で、そのうちの1名として、佐藤君は7月11日から6日間に亘って行われる大会に参加し、課題にいどみます。

附属高等学校ハンドボール部が  
第51回関東大会出場権を獲得

5月3日～5日に行われた、東京都高等学校ハンドボール春季大会において、附属高等学校ハンドボール部が東京都第3位となり、関東大会への出場権を獲得しました。平成15年度に続く、2年振り2回目の出場であり、国立大学法人の学校としては、滅多にないことといえます。出場決定戦では、3点ビハインドを残り7分で追いつき逆転、1点差の逃げ切りという、厳しい試合でした。決定直後、選手は喜びを爆発させていました。同校の特徴は、少ない練習時間をやり繰りし、学校での授業や受験勉強との両立を図りながらの部活動です。常に目標を高く持った練習を心がけ、相手チームのスカウティングを怠らず、試合に臨み、好結果を得ることができました。また、大西武三教授（人間総合科学研究科）が指導する大学ハンドボール部も強豪であり、それに負けないようにと努力してきました。



現在、6月4日から栃木市を中心に開催される第51回関東大会に向けて、さらなる向上をはかるべく、練習に励んでいます。

前号の訂正

5月11日発行の第9号14ページ30～31行目「(独)産業・生物系特定産業技術研究機構」は「(独)農業・生物系特定産業技術研究機構」の誤りでした。お詫びのうえ訂正します。

## 自転車・バイク置き場新設のお知らせ（施設部から）

自転車・バイク置き場が完成しました！

学内の駐輪場不足、また下記の問題解消のため駐輪場を新設しましたので、有効に活用して下さい。

**問題点**

- ・乱雑な駐輪が歩行者や視覚障害者の通行の妨げとなっている。
- ・建物入口付近に駐輪している自転車が、避難経路の妨げとなっている。
- ・強風により自転車が転倒する。
- ・バイクがペDESTリアンデッキへ乗り入れられている。

現  
状

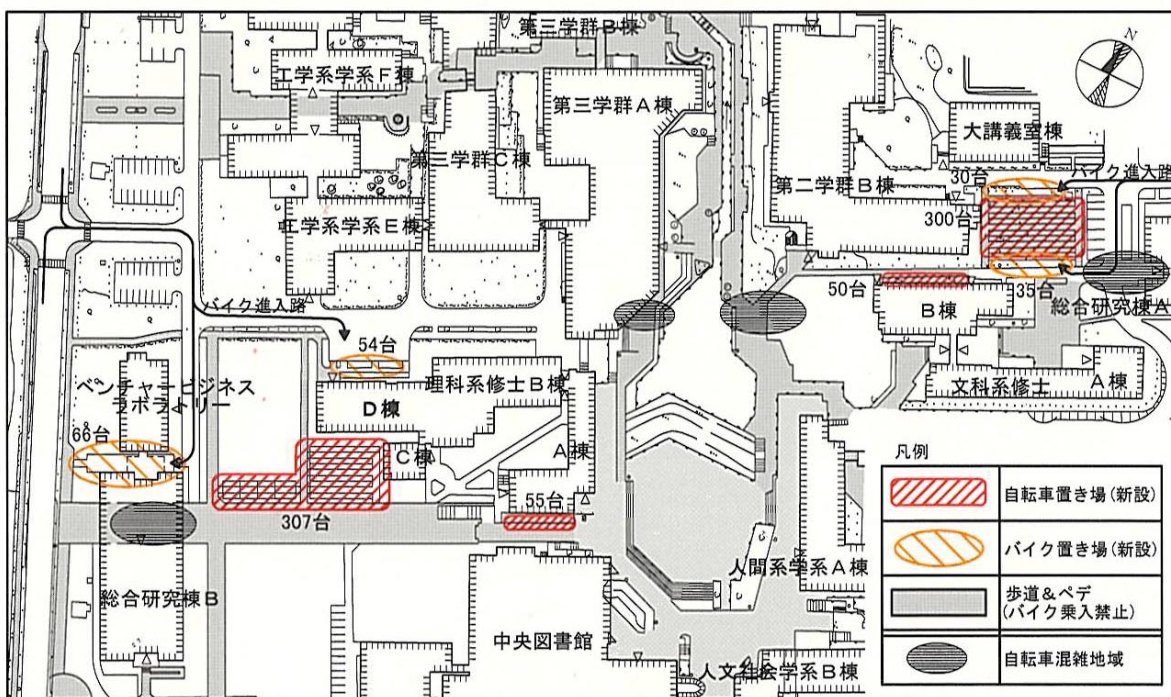


●避難経路の妨げとなっている。



●歩行者や視覚障害者の通行の妨げとなっている。

設  
置  
場  
所



『一人一人のマナーが大切です。みんなで筑波大学を美しくしましょう。』

---

「速報つくば」からのお知らせ

「速報つくば」の次回（通巻1103号）の発行は6月8日（水）、原稿締切りは6月2日（木）となります。

学内行事、イベント情報及び教職員サークル活動などの記事も募集しています。

なお、「速報つくば」への寄稿に際しては、次の事項に留意ください。

できるだけ電子メールや電子メールへの添付ファイル等にしてください。

表彰関係記載項目については、受賞者氏名、所属、受賞名、簡単な賞の説明、受賞対象論文名等（掲載誌のページ等は省略願います。）とし、授賞式の日時、場所等については、必要がある場合等を除き、省略願います。

シンポジウム等の開催案内でシンポジウム等の概要を記す場合は、なるべく400字以内としてください。

簡潔に記載してください。

採用させて頂いた原稿は、Web上に掲載しますので、ご了承願います。また、文教速報（官庁通信社発行）、文教ニュース（文教ニュース社発行）及びSTUDENT'S（学生部発行）等からの情報提供依頼があった場合は、掲載情報（写真等を含む。）を提供しますのでご承知おきください。

「速報つくば」のhtml版及びPDF版は、次のアドレスでご覧になれます。

<http://www.tsukuba.ac.jp/koho/booklets/index.html>

学内ニュース、写真の提供及び掲載内容へのご意見は広報課（TEL2065，FAX2014）へお願いします。

E-mail：sokuho@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

電子メールで寄稿された方には、「速報つくば」より原稿受付等の返信メールをお送りしますので、ご確認ください。なお、返信メールが届かない場合は、お手数でも広報課までご連絡いただきますようお願いいたします。